

審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等
I 審議事項					
1. 規則関係					
提案1	「地方学術会議の今後の進め方について」を幹事会として決定すること	会長	B(7-9)	「地方学術会議の今後の進め方について」について幹事会として決定する必要があるため。	渡辺副会長 内規7条1項, 2項, 4項
提案2	「若手アカデミー運営要綱」を改正すること	若手アカデミー代表	B(11)	若手アカデミー運営要綱における若手アカデミー会員の所属期間に関する規則を改正する必要があるため。	三成副会長 会則第三十四条の2、若手アカデミー運営要綱第3の4
2. 提言等関係					
提案3	提言「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて一成育空間の課題と提言2020—」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	心理学・教育学委員会委員長、臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長	C-1(1-69)	心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第一部、第三部査読	心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会木下勇委員長、水口雅副委員長 内規3条1項
提案4	提言「シチズンサイエンスを推進する社会システムの構築を目指して」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	若手アカデミー代表	C-1(70-103)	若手アカデミーにおいて、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※科学と社会委員会査読	若手アカデミー岸村頭広代表、高瀬堅吉幹事 内規3条1項

提案5	提言「認知症に対する学術の役割—共生と予防に向けて—」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	認知障害に関する包括的検討委員会委員長	C-1(104-139)	認知障害に関する包括的検討委員会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※科学と社会委員会査読	認知障害に関する包括的検討委員会 實金清博委員長、 小松浩子副委員長	内規3条1項
提案6	提言「行政記録情報の活用に向けて」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	経済学委員会委員長	C-2(1-19)	経済学委員会数量的経済・政策分析分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第一部査読	経済学委員会数量的経済・政策分析分科会 西山慶彦委員長、 宇南山卓幹事	内規3条1項
提案7	提言「性的マイノリティの権利保障をめざして（Ⅱ）—トランスジェンダーの尊厳を保障するための法整備に向けて—」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	法学委員会委員長	C-2(20-91)	法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第一部査読	法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会 三成美保委員長、 二宮周平副委員長	内規3条1項
提案8	報告「学術とSDGsのネクストステップ —社会とともに考えるために—」について日本学術会議会則第2条第4号の「報告」として取り扱うこと	科学と社会委員会委員長	C-2(92-126)	科学と社会委員会及び科学と社会委員会科学と社会企画分科会において、報告をとりまとめたので、関係機関等に対する報告として、これを外部に公表したいため。 ※幹事会査読	科学と社会委員会 沖大幹委員、同科学と社会企画分科会 藤原聖子幹事	内規3条1項
提案9	提言「学術情報流通の大変革時代に向けた学術情報環境の再構築と国際競争力強化」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	第三部長	C-2(127-179)	第三部理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第三部査読	第三部理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会 山口周委員長、 菱田公一副委員長	内規3条1項

3. 協力学術研究団体関係

提案10	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	B(13)	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①国際農村開発学会 ※令和2年7月30日現在2,069団体（上記申請団体を含む）	三成副会長	会則36条
------	-----------------------	-----------	-------	---	-------	-------

4. 国際関係

提案11	STSフォーラムにおける「Academy of Science Presidents' Meeting」の主催について	会長	B(15-17)	主催：日本学術会議 日時：令和2年10月5日（月）18：30～20：00 場所：オンライン	武内副会長	内規別表第1
提案12	令和2年度代表派遣について、実施計画の追加、変更及び10月-12月期の派遣者を決定すること	会長	B(19-21)	令和2年度代表派遣について、実施計画の追加、変更及び10月-12月期の派遣者を決定する必要があるため。	武内副会長	国際交流事業に関する内規第19条2項、21条2項、22条
提案13	令和2年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の決定について	会長	B(23-24)	令和2年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣を決定する必要があるため。	武内副会長	国際学術交流事業に関する内規53条5項

5. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和2年度第3四半期】追加分

提案14	公開シンポジウム「Withコロナの時代に考える人間のちがいと差別 ～人類学からの提言～」	地域研究委員会	B(27-28)	主催：日本学術会議地域研究委員会、文化人類学分会、多文化共生分会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分会 日時：令和2年10月11日（日）14：00～16：00 場所：オンライン開催（日本学術会議講堂から発信） ※第一部承認	-	内規別表第1
------	--	---------	----------	--	---	--------

6. その他のシンポジウム等

提案15	公開シンポジウム「社会のための心理学～心理学高等教育の入口と出口～」	心理学・教育学委員会委員長	B(29-30)	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会社会のための心理学分会 日時：令和2年9月8日（火）～11月10日（火）（予定） 場所：オンライン開催（事前に収録したものを公開するもの） ※第一部承認	-	内規別表第1
提案16	公開シンポジウム「大学入試改革と歴史系科目の課題」	史学委員会委員長	B(31-32)	主催：日本学術会議史学委員会・史学委員会中高大歴史教育に関する分会 日時：令和2年10月18日（日）13：00～17：30 場所：駒沢大学駒澤キャンパス 3-207教場（種月館） ※新型コロナウイルス感染症の状況により開催形態を変更し、オンラインにより開催する。 ※第一部承認	-	内規別表第1

提案17	日本学術会議北海道地区会議学術講演会「感染症との共存の現在と未来（仮題）」	科学者委員会委員長	B(33-34)	主催：日本学術会議北海道地区会議 日時：令和2年11月7日（土）13：30～17：00 場所：北海道大学学術交流会館小講堂（札幌市北区） ※対面とWebEXオンライン配信とのハイブリッドを予定 ※開催主体が地区会議のため、承認は幹事会のみ	-	内規別表第1
提案18	公開シンポジウム「One health：新興・再興感染症～動物から人へ、生態系が産み出す感染症～」	食料科学委員会委員長	B(35-36)	主催：日本学術会議食料科学委員会、日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会、日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会 日時：令和2年11月14日（土）13：30～17：20 場所：Webexを用いたオンライン開催 配信拠点：北海道大学大学院獣医学研究院 ※第二部承認	-	内規別表第1
提案19	公開WEBシンポジウム「COVID-19パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」	化学委員会委員長	B(37-39)	主催：日本学術会議化学委員会、日本学術会議化学委員会IUCr分科会、日本学術会議物理学委員会・化学委員会合同結晶学分科会 日時：令和2年11月29日（日）10：00～15：30 場所：オンライン（筑波大学数理物質系物理学域エネルギー物質科学研究センター（仮）（WEB開催拠点）） ※第三部承認	-	内規別表第1
提案20	公開シンポジウム「モダリティーが切り拓く次世代創薬」	薬学委員会委員長	B(41)	主催：薬学委員会/化学・物理系薬学分科会/生物系薬学委員会/公益社団法人日本薬学会 共催：日本生命科学アカデミー、日本核酸医薬化学会 後援：日本医療研究開発機構、日本糖質学会、日本ケミカルバイオロジー学会 4. 日時：令和2年12月8日（火）13：00～17：40 場所：オンラインによるリアルタイム開催（Zoomウェビナーを利用） ※第二部承認	-	内規別表第1
提案21	公開シンポジウム「第10回計算力学シンポジウム」	総合工学委員会委員長	B(43-45)	主催：日本学術会議総合工学委員会 日時：令和2年12月7日（月）10：00～16：50 場所：日本学術会議6階6-C(1)(2)(3)会議室、オンライン（ただし、状況によってはオンラインのみの開催となる可能性あり） ※第三部承認	-	内規別表第1
提案22	公開シンポジウム「科学的知見の創出に資する可視化(5)：ICT／ビッグデータ時代の文理融合研究を支援する可視化」	総合工学委員会委員長	B(47-48)	主催：日本学術会議総合工学委員会、総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会 日時：令和2年12月12日（土）13：00～16：30 場所：ZOOMを用いたオンライン開催 ※第三部承認	-	内規別表第1

提案23	公開シンポジウム「食の安全と環境ホルモン」	食料科学委員会委員長	B(49-50)	主催：日本学術会議食料科学委員会、日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会、日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会、日本学術会議食料科学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同毒性分科会 日時：令和2年12月5日（土）13：30～17：30 場所：Webexを用いたオンライン開催 配信拠点：北海道大学大学院獣医学研究院 ※第二部承認	-	内規別表第1
------	-----------------------	------------	----------	---	---	--------

7. 後援

提案24	国際会議の後援をすること	会長	—	以下の国際会議において、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム第17回年次総会 主催：特定非営利活動法人STSフォーラム 期間：令和2年10月3日（土）～6日（火） 場所：国立京都国際会館（京都府京都市）をキーステーションとしたオンライン開催 参加予定国数：80か国・地域 申請者：特定非営利活動法人STSフォーラム理事長 尾身 幸次 ※国際委員会8月26日承認予定、同国際会議主催等検討分科会8月13日承認	武内副会長	国際交流事業に関する内規第39条
------	--------------	----	---	--	-------	------------------

II その他

	件名	資料(頁)
1.	今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は9月10日(木)13時30分開催予定	D(1)

地方学術会議の今後の進め方について

〔 令和 2 年 ○ 月 ○ 日 〕
日本学術会議第○回幹事会決定

地方学術会議の今後の進め方について、日本学術会議内で共通認識を持つために、幹事会として整理した。

1. 目的と概要

地方における学術会議の開催を目的とする。具体的には、日本学術会議がその核としての幹事会（懇談会）を各地方において開催し、地区の会員・連携会員との懇談、地域のリーダー、産業界、地域行政等との意見交換を行う。

2. 地方学術会議の開催地と形式

- 1) 地方学術会議と地区会議は、その意義と目的が異なるため、分けて開催する必要があるが、地方学術会議と地区会議の連携を図って開催すること（共催）は可能である。各都道府県は地区を越えて、協力する他の都道府県と共催することも可能とする。（別表を参照）
- 2) 今期（第 24 期）の地方学術会議については、既に京都（2018 年 12 月 22 日）、北海道（2019 年 2 月 14 日）、富山（2019 年 6 月 28 日）で開催され、2020 年 9 月に山口での開催が予定されている（新型コロナウイルス感染のため 2020 年 3 月から延期）。
- 3) 2020 年度は九州、東北に依頼をして、これまでの開催地を含め、関東地区以外のすべての地区で 2021 年度までに一度は開催することとする（新型コロナウイルス感染のため延期の可能性あり）。
- 4) 関東地区については、東京都以外の関東圏内の各県で開催について、次期（第 25 期）に検討する。
- 5) 第 25 期の最初の開催地は第 24 期に予定を決定しておく。上記 3）の通り、九州あるいは東北での開催とする。また、長期的な計画を立てて各地方との調整を図り、開催する。
- 6) 第 25 期以降、開催企画は大学が中心になると考えられるが、単一の都道府県だけでなく複数でも可能とし、また、地区の枠にこだわらない共催にすることも妨げない。
- 7) 状況により止むを得ずオンラインを一部、あるいは全面的に導入する場合もあり得るが、原則として、対面での開催とする。

3. 地方学術会議委員会

- 1) 委員構成には各地区会議構成員が網羅されるよう配慮する。
- 2) 若手が今後を引き継ぐことを考慮し、継続して若手アカデミーからも参加する。

4. 地方学術会議の幹事会承認手続

地方学術会議委員会委員長は、各回の地方学術会議の企画案を開催月の3か月前までの幹事会に提案し承認を得る。

当該企画案は、幹事会に提案する月の初旬までに地方学術会議担当事務局に提出するものとする。

5. 地方学術会議の広報

- 1) 学術会議のホームページの地方学術会議コーナーに、地方会議開催の報告書を掲載し、今後の開催についてお知らせする。
- 2) 地方学術会議について、学術の動向に特集として掲載することを提案する。各開催時のテーマについて小特集として提案することを予定する。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

別 表

地方学術会議と地区会議の比較

	地方学術会議	地区会議
開催母体	<ul style="list-style-type: none"> 地方学術会議委員会(日本学術会議幹事会附置委員会) 幹事会(懇談会) 	<ul style="list-style-type: none"> 地区会議運営協議会
開催形式	<ul style="list-style-type: none"> 幹事会(懇談会)を地方で開催 地方においては地区会議が調整の窓口となる。地区を超えた都道府県間の連携もあり得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各7地区で実施(北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄)
目的	<ul style="list-style-type: none"> 日本学術会議の核としての幹事会(懇談会)を地方で開催し、地方関係者との意見交換を実施、より一層強力に地方における学術振興を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区内の科学者等の日本学術会議に対する意見、要望を汲み上げて日本学術会議との意思疎通を図り、地域社会の学術の振興に寄与する。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 各地方において幹事会(懇談会)を開催する。 幹事会構成員と地区の会員・連携会員との懇談、地域のリーダー、産業界、地域行政等との意見交換 講演会など学術会議の企画を付随させることも可能(ただし必須ではない)。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の求める情報に即したテーマを設定した学術講演会・シンポジウムの開催や科学者との懇談会の開催 地区会議ニュースの発行など。
回数	<ul style="list-style-type: none"> 原則年1回 	<ul style="list-style-type: none"> 各地区において1-2回/年

○若手アカデミー運営要綱（平成26年10月23日日本学術会議第204回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p style="text-align: center;">●若手アカデミー運営要綱</p> <p style="text-align: center;">〔平成26年10月23日 日本学術会議第204回幹事会決定〕</p> <p>（若手アカデミー会員）</p> <p>第3 若手アカデミーは、期ごとに会員又は連携会員（以下、「若手アカデミー会員」という。）をもって組織する。</p> <p>（略）</p> <p>4 一人の会員又は連携会員が若手アカデミーに所属する期間が<u>通算6年に達した場合又は満45歳に達した場合には、その期をもって若手アカデミーへの所属を終えるものとする。</u></p> <p>（略）</p>	<p style="text-align: center;">●若手アカデミー運営要綱</p> <p style="text-align: center;">〔平成26年10月23日 日本学術会議第204回幹事会決定〕</p> <p>（若手アカデミー会員）</p> <p>第3 若手アカデミーは、期ごとに会員又は連携会員（以下、「若手アカデミー会員」という。）をもって組織する。</p> <p>（略）</p> <p>4 一人の会員又は連携会員が若手アカデミーに所属する期間は、通算6年を超えないものとし、かつ、満45歳に達した場合には最初の9月30日までとする。</p> <p>（略）</p>

附則（令和2年8月27日日本学術会議第297回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込み団体の概要

	団体名	概 要
1	<p>国際農村開発学会 (http://www.iserd.net/)</p>	<p>本団体は、開発途上国の農業と環境に焦点を当て、持続可能な農村開発に関して適切かつ効果的なプロセスや戦略を議論し、その成果を自然環境と調和した社会的・経済的な発展を通じた持続可能な農村開発への貢献や、現地政府・非政府機関等の能力開発に資することを目的とするものである。</p>

STS フォーラムにおける Academy of Science Presidents' Meeting (APM) の開催について

1. 主催 日本学術会議
2. 日時 令和2年 10 月 5 日 (月) 18:30～20:00
3. 会場 オンライン
4. テーマ
Sustainable and Resilient Recovery from COVID-19
(仮訳:新型コロナウイルス感染症からの持続可能でレジリエントな復興)
5. 開催趣旨
日本学術会議は、平成 20 年より STS フォーラム年次総会のプログラムの一つとして、主要各国のアカデミーのリーダーが共有する課題を討議する Academy of Science Presidents' Meeting を主催している。
本年のテーマは、共同議長を務める英国王立協会(The Royal Society)からの提案によるものである。「人類は自らが招いた気候危機に直面し、その影響はあらゆるものに及んでいる。世界各国は、新型コロナウイルスからの経済と社会の復興にあたって、資源多消費型の生産と消費への逆戻りか、持続的な環境と社会への移行かという選択を迫られている。万人にとっての持続可能でレジリエントな未来への移行を実現する鍵となるものは、技術的な解決策や政策決定者との対話を含めた科学の力である」との趣旨のもと、主要各国・地域のアカデミー代表者とともに日本学術会議の取組を報告する。
6. 次第
開会挨拶・テーマ説明等 日本学術会議会長及び英国王立協会(共同議長)
アカデミー別報告 アカデミー代表者報告
講評・閉会挨拶 日本学術会議会長及び英国王立協会(共同議長)

7. 参加アカデミー等

[アカデミー]

Bulgarian Academy of Sciences (ブルガリア)
The Royal Society of Canada (カナダ)
The Czech Academy of Sciences (チェコ)
Finnish Academy of Science and Letters (フィンランド)
Indian National Science Academy (INSA) (インド)
Indonesian Academy of Sciences (AIPI) (インドネシア)
Science Council of Japan (日本)
The Korean Academy of Science and Technology (KAST) (韓国)
Latvian Academy of Sciences (ラトビア)
Academy of Sciences Malaysia (マレーシア)
Academy of Sciences of Moldova (モルドバ)
Mongolian Academy of Sciences (MAS) (モンゴル)
Slovak Academy of Sciences (スロバキア)
Academia Sinica (台湾)
Turkish Academy of Sciences (TÜBA) (トルコ)
The Royal Society (英国)
National Academy of Sciences (米国)

[国際学術機関]

International Science Council (フランス)
InterAcademy Partnership (イタリア)
African Academy of Sciences (AAS) (ケニア)

※参加アカデミー等は変更の可能性あり

(参考)

STS フォーラム 2020(Science and Technology in Society Forum:技術と人類の未来に関する国際フォーラム)について

1. 主 催 特定非営利活動法人 STS フォーラム
2. 日 程 令和2年 10 月3日(土)～6日(火)
3. 会 場 国立京都国際会館とオンラインでのハイブリット形式での実施
4. 参加者 科学者、政策立案者、経営者、ジャーナリスト等
5. 後 援 日本学術会議、外務省、文部科学省、経済産業省等

○STS フォーラムとは

STS フォーラム(科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム)は、人類の叡智を結集し、科学技術を適切にコントロール、発展させていくことを目的に、科学者、政策立案者、経営者、ジャーナリスト等が一堂に会して、科学技術と社会に関する問題を人類に共通なものとして議論するものである。

各国の多様な社会のグループの代表が、科学技術について意見交換をする場を継続して提供するものであり、平成 16 年の第 1 回開催以降、毎年1回京都(国立京都国際会館)で開催。平成 18 年 3 月に特定非営利活動法人として発足した。

令和 2 年度代表派遣実施計画の追加・変更及び 10 月－12 月期の派遣者の決定について

以下のとおり、令和 2 年度代表派遣実施計画の追加・変更及び 10 月－12 月期の派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
1	ISC Urban Health Wellbeing Committee	9 月 24 日～ 30 日 ※調整中	オンライン	中村 桂子 連携会員 (東京医科歯科大学大学院国際保健医療事業開発学教授)	・代表派遣計画の追加 ・派遣者の決定 ※オンライン形式で開催
2	サイエンス20(S20)会合	9 月 25 日～ 26 日 ↓ 9 月 26 日	未定→ジェッダ (サウジアラビア)	武内 和彦 第二部会員 (公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、東京大学未来ビジョン研究センター特任教授)	・会期の変更 ・開催地の決定 ・派遣者の 4 名追加及び決定 ※新型コロナウイルス感染症の影響により実地開催とオンライン参加とを併用して開催 ※日本からはオンライン参加予定
				秋葉 澄伯 第二部会員 (弘前大学特任教授・鹿児島大学名誉教授)	
				郡山 千早 特任連携会員 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科疫学・予防医学教授)	
				森口 祐一 連携会員 (国立環境研究所理事、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授)	
				村山 泰啓 連携会員 (国立研究開発法人情報通信研究機構ソーシャルイノベーションユニット戦略的プログラムオフィス研究統括)	
新福 洋子 特任連携会員 (広島大学大学院医系科学研究科教授)					

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
3	国際純粋・応用物理学連合 (IUPAP)第30回総会	10月12日 ～ 10月14日 ↓ 延期	北京 (中国)	—	・会期の変更 ※新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期
4	2020 海洋研究科学委員会 (SCOR)年会	10月19日 ～ 10月23日	グアヤキル (エクアドル) ↓ オンライン	山形 俊男 連携会員 (国立研究開発法人海洋研究開発機構アプリケーションラボ特任上席研究員、京都大学特任教授、東京大学名誉教授)	・派遣者の決定 ※新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン形式に変更
				窪川 かおる 連携会員 (東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター特任教授)	
5	世界工学団体連盟(WFEO)拡 大理事会	10月26日 ～ 10月30日	キガリ (ルアンダ) ↓ オンライン	塚原 健一 連携会員 (九州大学工学研究院教授)	・派遣者の決定 ※新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン形式に変更
6	国際地質科学連合(IUGS)臨時 総会、第76回国際地質科学連 合理事会及び事務局会議	10月28日 ～ 10月30日	パリ (フランス)	北里 洋 連携会員 国立大学法人東京海洋大学特任教授	・代表派遣計画の追加 ・派遣者の決定 ※新型コロナウイルス感染症の影響により実地開催とオンライン参加 とを併用して開催 ※日本からはオンライン参加予定
7	第10回国際古地震・活構造・ 考古地震学会議	11月8日 ～ 11月16日 ↓ 延期	オルニトス (チリ)	—	・派遣時期の変更 ※新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期
8	G7 Research Summit	11月25日	オタワ→トロント (カナダ)	村山 泰啓 連携会員 (国立研究開発法人情報通信研究機構ソーシャルイ ノベーションユニット戦略的プログラムオフィス研究統 括)	・開催地の変更 ※開催形式検討中

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
9	国際土壌科学連合(IUSS)中間 会議	11月18日 ～ 11月23日	グラスゴー (イギリス) ↓ オンライン	小崎 隆 連携会員 (愛知大学国際コミュニケーション学部教授、京都大 学名誉教授)	※新型コロナウイルス感染症の影 響によりオンライン形式に変更
				波多野 隆介 特任連携会員 (北海道大学大学院農学研究院教授)	
10	国際科学史技術史科学基礎論 学会連合、科学史技術史部門 (IUHPST-DHST)、評議会	12月4日 ～ 12月6日	サンクトペテルブ ルク (ロシア)	橋本 毅彦 連携会員 (東京大学大学院総合文化研究科教授)	・派遣者の決定 ※開催形式検討中
11	太陽地球系物理学・科学委員 会(SCOSTEP) 理事会	12月6日 ～ 12月11日	サンフランシスコ (アメリカ) ↓ オンライン	塩川 和夫 特任連携会員 (名古屋大学宇宙地球環境研究所教授・副所長)	・派遣者の決定 ※新型コロナウイルス感染症の影 響によりオンライン形式に変更
				三好 由純 特任連携会員 (名古屋大学宇宙地球環境研究所教授)	
12	世界気候研究計画(WCRP) 気 候と雪氷圏(CliC) 科学推進委 員会	12月7日 ～ 12月11日	サンフランシスコ (アメリカ) ↓ オンライン	杉山 慎 特任連携会員 (北海道大学低温科学研究所教授)	・派遣者の決定 ※新型コロナウイルス感染症の影 響によりオンライン形式に変更

令和2年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	フューチャー・アース評議会 (Governing Council)	9月11日 (予定)	1日	オンライン開催 東京	武内 和彦 第二部会員 (公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、東京 大学未来ビジョン研究センター特任教授)	第1区分
2	フューチャー・アース評議会 (Governing Council)	9月11日 (予定)	1日	オンライン開催 東京	春日 文子 連携会員 (国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー)	第1区分

※令和2年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（令和2年2月13日日本学術会議第287回幹事会決定）
に基づく区分

※日程に変更があった場合は、その日程とする。

●令和2年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（案）

令和2年2月13日
日本学術会議第287回幹事会決定

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、令和2年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、日本学術会議が日本の代表機関として国際本部事務局の機能（日本支部）の一部を担っていること、また、日本学術会議連携会員が国際本部事務局日本支部事務局長を務めていることから、令和2年度の内規第51条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

(1) 第1区分

- ・フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である諮問委員会（AC: Advisory Committee）、評議会（GC: Governing Council）、レビューパネル及び国際本部事務局の行う会議へ、国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・本年度、AC及びGCは各一回程度、国際本部事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

(2) 第2区分

- ・フューチャー・アースの実施に当たり、国際本部事務局及びアジア地域事務局が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・具体的には、日本学術会議が国際本部事務局として運営の一部を担う予定であるグローバル研究プロジェクトに関する会議、タスクフォース及びKAN（Knowledge-Action Networks）に関する会議等への派遣を行う。
- ・上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

(3) 第3区分

- ・フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を派遣する。
- ・上記に当たっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりがあるものを優先する。
- ・さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のグローバル研究プロジェクトの会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

※様式記載省略

5. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和2年度第3四半期】追加分

<概要>

1. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度 32 回まで、及び 四半期ごとにおおむね 8 回
(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【令和2年度第3四半期】 全 1 件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所
1	提案 1 4	公開シンポジウム「With コロナの時代に考える人間のちがいと差別 ～人類学からの提言～」	令和 2 年 1 0 月 1 1 日 (日)	オンライン開催 (日本学術会議 講堂から発信)

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 (学術フォーラム含む) 全 1 5 件 残り： 1 7 件
(内訳)

	関連部等	第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
シンポジウム	第一部		1	2	
	第二部	4	2		
	第三部	1	1		
	若手アカデミー		1		
	課題別				
学術フォーラム (土日)		2	1		
合計		7	6	2	

※令和元年 10 月の幹事会において承認され、3 月から延期している公開シンポジウム「ヒトの「ちがい」って何だろうー人類学者が文理融合で語るグローバル化時代の日本」を、今の時勢に合わせマイナーチェンジした企画

公開シンポジウム

「With コロナの時代に考える人間のちがいと差別 ～人類学からの提言～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会、文化人類学分科会、多文化共生分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会
2. 後援：日本文化人類学会、日本人類学会
3. 日 時：令和 2 年 1 0 月 1 1 日（日） 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0
4. 場 所：オンライン開催（日本学術会議講堂から発信）
※Youtube での事後公開については検討中
5. 分科会等の開催：あり
6. 開催趣旨： 新型コロナウイルス（COVID-19）の猛威が収まらない中、私たちはコロナ時代の社会や経済について短期的展望を描くのみならず、人間としてこの時代とどう向き合っていくのか、長期的な視野を持つべきであろう。現在のコロナ禍では、世界中の人々がともに困難に立ち向かい、各所で新しい支え合いが生まれる一方、他者や他集団への不寛容・差別・嫌悪が顕在化している。またこの渦中、アメリカにおける黒人暴行死をきっかけに世界中に広まったブラック・ライブズ・マター運動は、私たちに人種差別が私たち一人一人の問題であることを再認識させた。そこで今こそ、この古くて新しい差別の問題を問い直したい。軋轢は平和に役立たないことをわかっていながら、私たちはなぜそうした感情に陥るのだろうか？はたして差別は永遠に変わらないのだろうか？

本シンポジウムでは、文理両サイドの人類学者が集い、コロナ禍で噴出してきた人間のちがいと差別をめぐる問題について考える。前半は 4 名の研究者が話題提供し、後半では 4 名のパネリストに話題提供者を交えて議論を行う。人類学は、人類の進化と人々が織りなす文化について、空間的多様性や時代的変遷も考慮しながら、人間の本質を捉えようとする学問である。政治的・国家的立場を越えた、人間として共有すべき価値観とは何か、差別解消に一步でも近づく糸口はあるのか、このシンポジウムでともに探りたい。

7. 次 第：

14:00 開会あいさつ・問題提起：山極壽一（日本学術会議会長、京都大学総長）

14:10 講演

司会：窪田幸子（日本学術会議第一部会員、神戸大学大学院国際文化学研究科教授）

※以下、演題は仮

1. 感染症と人類の歴史 -ゲノム研究の視点から
徳永勝士（日本学術会議連携会員、国立国際医療研究センター）
2. 濃厚接触者・クラスター・マスク：人類学からみた公衆衛生的介入の日常実践
増田研（長崎大多文化社会学部准教授）
3. コロナ禍とブラック・ライブズ・マター運動から考える差別と反差別
竹沢泰子（日本学術会議連携会員、京都大学人文科学研究所教授）
4. 差別をどう乗り越えるのか -自然人類学からの視点
海部陽介（日本学術会議特任連携会員、東京大学総合研究博物館教授）

15:10 討論

司会：高倉浩樹（日本学術会議第一部会員、東北大学東北アジア研究センター教授）

パネリスト：斎藤成也（日本学術会議連携会員、国立遺伝学研究所教授）

中谷文美（日本学術会議連携会員、岡山大学大学院教授）

松田素二（日本学術会議連携会員、京都大学大学院文学研究科教授）

山極壽一（同上）

話題提供者 4 名

16:00 閉会

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「社会のための心理学～心理学高等教育の入口と出口～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会社会のための心理学分科会
2. 共 催：日本心理学会認定心理士の会、日本基礎心理学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和2年9月8日（火）～11月10日（火）（予定）
5. 場 所：オンライン開催（事前に収録したものを公開するもの）
※本シンポジウムは Web 開催の「日本心理学会第 84 回大会」の一部として開催するもの
6. 分科会等の開催（なし）

7. 開催趣旨：現代社会では、心理学が疑似科学としての域を出ない学問と認識されている事実がある。このような誤解は大学での心理学の意欲的な学びを阻害するだけでなく、心理学の学びを活かした卒業後のキャリアパス形成にも悪影響を及ぼしている。心理学に対する誤ったイメージの形成は公認心理師資格の誕生により、さらに異なる方向へと拍車がかかることが予想される。すなわち、心理学高等教育が心理的支援の実践家養成のためだけにあるという誤解である。心理学に対する誤ったイメージに端を発する様々な問題を解決するためには、心理学の正しい知見や心理学の応用領域への貢献について、社会的な理解を深める必要がある。そこで本シンポジウムでは、中等教育から心理学高等教育へ進む「入口」、心理学高等教育から社会へ進む「出口」に存在する「心理学への誤解」を浮き彫りにすべく、各フィールドで活躍する実践家に話題提供頂く。さらに、心理学を学んだ人材が（心理的）支援以外のキャリアパスを構築する際のロールモデルとして、社会で活躍する認定心理士に話題提供頂く。日本心理学会が資格審査を行う認定心理士は、大学での心理学の学びを修めた人材の代表的なモデルとなる。シンポジウムを通じて、心理学の入口と出口の現状を浮き彫りにし、それらを適正化するための課題を抽出する。さらに社会で活躍する認定心理士有資格者の実践例から、心理学を学んだ人材のキャリアパスの多様性を示す。

8. 次 第：(Web 収録日での進行予定)

13:00 企画趣旨説明

高瀬 堅吉（日本学術会議連携会員、自治医科大学大学院医学研究科教授）

13:05 話題提供

13:05 心理学高等教育に対するイメージ～入口から～

木村 和貴（CRET 教育テスト研究センター研究員、元郁文館グローバル高等学校教頭）

- 13 : 30 心理学高等教育に対するイメージ～出口から～
増本 全 (株式会社リクルートキャリア就職みらい研究所所長)
- 13 : 55 心理学を学んだ人材のキャリアパス－実践例
本園 大介 (公益社団法人日本心理学会認定心理士の会会員)
- 14 : 20 指定討論
- 14 : 20 心理学を学んだ人材の多様なキャリアパス
丹野 義彦 (公益社団法人日本心理学会常務理事)
- 14 : 30 基礎心理学会から～基礎心理学の学びと社会接続～
河原純一郎 (日本学術会議連携会員、北海道大学大学院文学研究院教授)
- 14 : 40 総合討論
- 15 : 00 閉会

(下線の講演者は、主催分科会委員)

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

※新型コロナウイルス感染症の影響によって3月に開催予定（幹事会承認済み）であった公開シンポジウムを10月に延期して開催するもの。新型コロナウイルス感染症の状況によっては、開催形態を変更しオンラインにより開催する。

公開シンポジウム「大学入試改革と歴史系科目の課題」について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会・史学委員会中高大歴史教育に関する分科会
2. 共 催：日本歴史学協会
3. 後 援：未定
4. 日 時：令和2年10月18日（日）13：00～17：30
5. 場 所：駒沢大学駒澤キャンパス 3-207教場（種月館）

※新型コロナウイルス感染症の影響によっては、開催形態を変更し、オンラインにより開催する場合がございます。

6. 分科会等の開催：未定

7. 開催趣旨：日本学術会議史学委員会中高大歴史教育に関する分科会は、さる11月22日、大学入学共通テストの導入を見据えつつ、「提言 歴史的思考力を育てる大学入試のあり方」を発表した。そこでは、「世界史未履修問題」の反省に立ち、新必修科目「歴史総合」を大学入学共通テストの出題科目に組み込むとともに、歴史的思考力を測るための作問上の留意点を提案し、大学入学共通テストの試行調査（プレテスト）を中心に、実際の問題例を提示した。

大学入試の歴史系科目の改革は、これまでもいくつかの個別の大学で取り組まれてきたほか、早稲田大学を世話役として大規模な私立大学を中心に文部科学省委託研究が進められ、2019年11月、「高大接続改革に資する、思考力・判断力・表現力を問う新たな入学者選抜（地理歴史科・公民科）における評価手法成果報告書」が公表された。

そこで、今回のシンポジウムでは、大学入学共通テストと個別大学試験（二次試験）について、（1）「提言 歴史的思考力を育てる大学入試のあり方」の意義と課題の検討、（2）大学入試の歴史系科目改革の試みと課題、について、高校、大学双方の側から報告者を立て、討論する。

8. 次 第：

13：00 開会挨拶：若尾政希（日本学術会議第一部会員、一橋大学大学院社会学研究科教授）

趣旨説明：

小浜正子（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）

13：15 報告

鈴木 茂（日本学術会議連携会員、名古屋外国語大学世界共生学部教授）：「「提言 歴史的思考力を育てる大学入試のあり方について」の背景と意義（仮）」

桃木至朗（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院文学研究科教授）：

「提言・付録をとりまとめて（仮）」

都丸潤子（早稲田大学政治経済学術院教授）：「「歴史系大学入試問題の改革案と課題—文部科学省委託事業の知見から（仮）」

津野田興一（日比谷高等学校教諭）：「世界史入試問題のあるべき姿を探して（仮）」

高橋 哲（渋谷教育学園幕張中学校・高等学校教諭）：「日本史入試問題を高校教員はどう分析し、対応を図っているか—高校教員側の反省も含めて（仮）」

16：00 総合討論

司会：

君島和彦（日本学術会議連携会員、日本歴史学協会歴史教育特別委員会委員長、東京学芸大学名誉教授）

中野聡（日本歴史学協会歴史教育特別委員会幹事、一橋大学大学院社会学研究科教授）

コメント 久留島典子（日本学術会議第一部会員、東京大学史料編纂所教授）

17：30 閉会挨拶：中野達哉（日本歴史学協会委員長／駒澤大学教授）

（下線の講演者は、主催委員会・分科会委員）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

日本学術会議北海道地区会議学術講演会
「感染症との共存の現在と未来（仮題）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議北海道地区会議
2. 共 催：北海道大学
3. 日 時：令和2年11月7日（土）13：30～17：00
4. 場 所：北海道大学学術交流会館小講堂（札幌市北区北8条西5丁目）
（対面とWebEXオンライン配信とのハイブリッドを予定）
5. 開催趣旨：
COVID-19の世界的な拡大により、経済活動、生活様式、教育の在り方など、大きな変革が求められている。一方で、COVID-19への対応の裏で、他の多くの感染症問題が後回しにされているとの警鐘も出されている。現在、どのような感染症が問題となっており、またCOVID-19との共存に向けてどのようなパラダイムシフトが起こっているのか、専門家を交えた情報の共有を行うとともに、これからの社会について考える。
6. 次 第：
司会進行：石塚 真由美（日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院獣医学研究院教授）
 - (1) 開会挨拶
13：30～13：40 日本学術会議会長又は副会長（予定）
13：40～13：45 第25期北海道地区会議運営協議会代表幹事
 - (2) 講演
13：45～14：15 「新興・再興の感染症の動向（仮題）」
（調整中）
14：15～14：45 「深刻化するアフリカ豚熱と輸入食品（仮題）」
（調整中）
14：45～15：00 休憩
15：00～15：30 「北海道におけるCOVID-19への対応と共存（仮題）」
（調整中）
15：30～16：00 「生態系と人の活動が生み出す感染症（仮題）」
（調整中）
 - (3) 総合討論
16：00～16：55 座長 吉岡 充弘（日本学術会議第二部会員、北海道大学医学研究院長）
 - (4) 閉会の挨拶
16：55～17：00 第25期北海道地区会議運営協議会代表幹事
6. 関係部の承認の有無：科学者委員会

※下線の登壇者は、主催地区会議の会員・連携会員

※本学術講演会の開催は第25期となるが、開催準備等のため、第24期中に幹事会の承認を求めるもの。北海道地区会議の構成員から、第二部会員（第24－25期）の石塚真由美氏が司会、同じく第二部会員（第24－25期）の吉岡充弘氏が総合討論の座長となることで、来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいる。

なお、来期運営協議会代表幹事は開会挨拶、閉会挨拶及び司会を行うことを予定している。

公開シンポジウム「One health：新興・再興感染症～動物から人へ、
生態系が産み出す感染症～」開催について

1. 主催：日本学術会議食料科学委員会／日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会／
日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会
2. 共催：人と動物の共通感染症研究会
3. 後援：検討中
4. 日時：令和2年11月14日（土）13：30～17：20
5. 場所：Webex を用いたオンライン開催
配信拠点：北海道大学大学院獣医学研究院
6. 分科会等の開催：開催予定（獣医学分科会、食の安全分科会）

7. 開催趣旨：

新たな感染症、新興・再興感染症は、人類誕生以来、自然界の営みのなかで極稀な現象として起きてきた。そして今後も起こりうる。この現象の出現メカニズムとともに、現代社会で急速に進むグローバル化が新興・再興感染症の流行拡大に与える影響について概説する。自然現象であることから完全に本感染症の出現を防ぐことは不可能であるものの、極端に恐れることなく、One health、すなわち獣医学・医学・生態学の観点からの危機管理が重要であるとの理解を促す。

8. 次第：

司会：石塚 真由美（日本学術会議第二部会員、食の安全分科会委員長、北海道大学大学院獣医学研究院教授）

13時30分～13時40分

開会の挨拶：高井 伸二（日本学術会議第二部会員、獣医学分科会委員長、北里大学獣医学部教授）

第1部・座長：芳賀 猛（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13時40分～14時00分

1-1 新興・再興感染症～生態系が産み出す感染症：はじめに

杉山 誠（日本学術会議連携会員、岐阜大学応用生物科学部長）

14時00分～14時30分

1-2 インフルエンザ：動物から人へ、脈々と続く感染症
堀本 泰介（東京大学農学生命研究科教授）

14時30分～15時00分

1-3 エボラ熱：動物から人へ、時々起こる感染症
西條 政幸（国立感染症研究所ウイルス第1部部長）

休憩 15時00分～15時10分

第2部・座長：杉山 誠（日本学術会議連携会員、岐阜大学応用生物科学部長）

15時10分～15時40分

2-1 狂犬病：動物から人へ、巧妙に続く致死性感染症
伊藤 直人（岐阜大学応用生物科学部准教授）

15時40分～16時10分

2-2 コロナウイルス感染症：動物から人へ、そして世界に広がった感染症
神谷 亘（群馬大学大学院医学系研究科教授）

16時10分～16時40分

2-2 はしか（麻疹）：動物から人へ、そして人の感染症
竹田 誠（国立感染症研究所ウイルス第3部部長）

16時40分～17時10分

2-3 新興・再興感染症～生態系が産み出す感染症：まとめ
芳賀 猛（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

17時10分～17時20分

閉会の挨拶：苅和 宏明（人と動物の共通感染症研究会会長、北海道大学獣医学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開 WEB シンポジウム
「COVID-19 パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会
日本学術会議物理学委員会・化学委員会合同結晶学分科会
同化学委員会 IUCr 分科会
2. 共 催：一般社団法人日本結晶学会
3. 後 援：無
4. 日 時：令和 2 年 11 月 29 日（日）10：00～15：30
5. 場 所：筑波大学数理物質系物理学域エネルギー物質科学研究センター
（仮）（WEB 開催拠点）
6. 分科会の開催：開催予定（化学委員会・物理学委員会合結晶学分科会、
化学委員会 IUCr 分科会）
7. 開催趣旨：日本結晶学会創立 70 周年にあたる本年、COVID-19 のパンデミックという事態が発生した。このような危機の回避に向けて、結晶学、および、これに密接に関係する学問がどのような貢献をしているか、その情報を結晶学に係る我々が共有し、さらに、次世代を背負う大学生、大学院生、そして社会にこの情報を発信することの意義は大きい。また、ウィズコロナの時代の「新しい生活様式」が模索されている現在、結晶学に何が期待され、どのような貢献をなしうるかを議論する。
なお、本会議は、COVID-19 が拡大している深刻な状況を鑑み、WEB による公開シンポジウムとして開催する。
8. 次 第：
 - 10：00-10:05
挨拶 茶谷直人（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科教授）
 - 10：10-10:20
趣旨説明「COVID-19 パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」
山縣 ゆり子（日本学術会議連携会員、日本結晶学会会長、尚絅大学・尚絅短期大学部学長、熊本大学名誉教授）
 - 10：25-10:50

講演「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関連した構造情報データとウイルス感染とはー構造生物学に立脚して(仮)」

栗栖 源嗣(大阪大学蛋白質研究所教授)

10:55-11:20

講演「Structural features of neutralizing antibody responses to SARS CoV-2」

Ian Wilson(スクリプス研究所 教授)(ビデオまたはオンライン出演)

11:25-11:50

講演「放射光が支える科学技術一体外式人工肺(エクモ)の開発などに見られる医薬分野研究の現状と今後(仮)」

高田 昌樹(日本学術会議連携会員、東北大学多元物質科学研究所教授)

11:55-12:20

講演「コロナ時代の低環境負荷社会を目指して」

高原 淳(日本学術会議連携会員、九州大学先導物質科学研究所教授)

12:25~13:30 (休憩)

13:30-13:55

講演「COVID-19対策に関連するAMEDの研究開発について(仮)」

三島 良直(国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)理事長)(ビデオまたはオンライン出演)

14:00-14:25

講演「AMED BINDS 事業におけるCOVID-19のインシリコ手法によるドラッグリポジショニング(仮)」

広川貴次(国立研究開発法人 産業技術総合研究所 創薬分子プロファイリング研究センター研究チーム長)

14:30-14:55

講演「COVID-19 国産ワクチンの創製に向けて」

森下 竜一(内閣官房 健康・医療戦略室 戦略参与、大阪大学医学系研究科寄附講座教授)

15:00-15:30

総合討論

(司会) 菅原 洋子(日本学術会議第三部会員、豊田理化学研究所客員

フェロー、北里大学名誉教授)

15 : 30 閉会

9. 関係部の承認の有無 : 第3部承認

10. 申し込み方法・連絡先

申し込み方法 web 申し込み用 URL 設定 (予定)

連絡先 井上 豪 (日本学術会議連携会員、大阪大学大学院薬学系研究
科教授)・担当 : 竹市未帆

e-mail: sec1129@phs.osaka-u.ac.jp

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「モダリティーが切り拓く次世代創薬」の開催について

1. 主 催：薬学委員会/化学・物理系薬学分科会/生物系薬学分科会/
公益社団法人日本薬学会
2. 共 催：日本生命科学アカデミー、日本核酸医薬化学会
3. 後 援：日本医療研究開発機構、日本糖質学会、日本ケミカルバイオロジー学会
4. 日 時：2020年12月8日（火）13:00～17:40
5. 場 所：オンラインによるリアルタイム開催（Zoom ウェビナーを利用）
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：様々な疾患ニーズが増加するにつれ、バイオ医薬品、核酸、糖鎖、細胞医薬品などモダリティー創薬が注目されています。モダリティー創薬は医薬品の多様性を増大させ、これからの医薬品の潮流をなすものと期待されます。本シンポジウムでは、モダリティーの基盤となるエクソソーム、糖鎖などの生体構成物質と病変との関係に焦点を当てたいと考えております。また、アカデミア、企業において進展著しい核酸医薬や中分子創薬、さらにモダリティーのレギュラトリーサイエンスについての情報を提供したいと考えております。

8. 次 第：

- 1) 開会挨拶趣旨説明 嶋田 一夫（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授 理化学研究所生命機能科学研究センター）
- 2) 新井 洋由（（独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA） 理事）
「PMDAにおける審査の迅速化と新創薬モダリティーに対する最近の取り組み」
- 3) 和田 猛（東京理科大学 薬学部 教授）
「核酸医薬の有効性と安全性を向上させる新規分子技術の開発」
- 4) 落谷 孝広（東京医科大学 医学総合研究所 教授）
「エクソソーム創薬の未来」
- 5) 深瀬 浩一（大阪大学 大学院理学研究科 教授）
「化学合成による複合糖質の機能解析と免疫制御への展開」
- 6) 遠藤 玉夫（日本学術会議会員、日本学術会議第二部会、地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センターシニアフェロー）
「タンパク質の糖鎖修飾：生理的意義と病的意義、そして創薬標的へ」
- 7) 閉会挨拶 長野 哲雄（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授 東京大学創薬機構 客員教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム「第10回計算力学シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会
2. 共 催：一般社団法人可視化情報学会、特定非営利活動法人 CAE 懇話会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、日本計算数理工学会、日本計算力学連合、一般社団法人日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合 (Asian Pacific Association for Computational Mechanics, APACM)、国際計算力学連合 (International Association for Computational Mechanics, IACM)
3. 後 援：公益社団法人日本自動車技術会
4. 日 時：令和2年12月7日(月) 10:00～16:50
5. 場 所：日本学術会議6階6-C(1)(2)(3)会議室、オンライン
(ただし、状況によってはオンラインのみの開催となる可能性もある)
(利用する会議室数5、使用目的：シンポジウム開催および計算科学シミュレーションと工学設計分科会と計算力学小委員会の合同開催)
6. 分科会等の開催：計算科学シミュレーションと工学設計分科会と計算力学小委員会の合同開催
7. 開催趣旨：我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手研究者が最新の成果を披露する。さらに、関連する最新の動向として「ポストパンデミックの計算力学」に関する3件の特別講演をいただく。日本における幅広い計算力学研究の現状と将来展望をまとめて聞くことができる貴重な機会となる。
8. 次 第：
総合司会：越塚 誠一（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授）
横野 泰之（東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻特任教授）

10:00-10:10 開会の辞:

吉村 忍 (日本学術会議第三部会員、東京大学副学長、大学院工学系研究科システム創成学専攻教授)

第 I 部 若手研究者による講演

10:10-10:30 講演 1 (可視化情報学会)

野々村 拓 (東北大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻准教授)
「流体力学の低次元モデルとスパースセンシング」

10:30-10:50 講演 2 (CAE 懇話会)

鈴木 良朗 (東京工業大学工学院機械系機械コース助教)
「最新の深層学習 (StyleGAN, GCN) による新車体のメッシュ合成～機械工学と深層学習の融合へ向けて～」

10:50-11:10 講演 3 (日本応用数理学会)

南畑 淳史 (中央大学理工学部情報工学科助教)
「対称疎行列を係数とする連立一次方程式に対する精度保証付き数値計算法とその応用」

11:10-11:30 講演 4 (日本計算工学会)

藤澤 和謙 (京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻准教授)
「増分ポテンシャル法を用いた非線形材料の数値モデリングとその周辺技術」

11:30-13:00 昼休み

13:00-13:20 講演 5 (日本計算数理工学会)

丸山 泰蔵 (愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻講師)
「波動・振動解析技術の融合による接触音響非線形問題の周波数応答解析」

13:20-13:40 講演 6 (日本計算力学連合)

未定

13:40-14:00 講演 7 (日本シミュレーション学会)

田中 智大 (京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻助教)
「局所慣性方程式の安定性解析と洪水氾濫解析への新展開」

14:00-14:20 講演 8 (日本機械学会計算力学部門)

石井 明男 (大阪大学大学院基礎工学研究科機能創成専攻特任講師)

「時間拡張原子シミュレーションの現状と問題点」

14:20-14:40 休憩

第 II 部 特別企画「ポストパンデミックの計算力学」

14:40-15:20 特別講演 1

西浦 博 (北海道大学医学研究院教授)

「未定」

15 : 20-16 : 00 特別講演 2

坪倉 誠 (神戸大学大学院システム情報学研究科教授)

「室内環境におけるウイルス飛沫感染の予測とその対策」

16 : 00-16 : 40 特別講演 3

未定

16 : 40-16 : 50 閉会の辞

萩原 一郎 (日本学術会議連携会員、明治大学特任教授、先端数理
科学インスティテュート所長)

9. 関係部の承認の有無：第3部承認

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

公開シンポジウム「科学的知見の創出に資する可視化 (5) :
ICT/ビッグデータ時代の文理融合研究を支援する可視化」の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会、総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
2. 共 催：一般社団法人可視化情報学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、一般社団法人画像電子学会、一般社団法人情報処理学会コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究会、一般社団法人芸術科学会、公益財団法人画像情報教育振興協会 (CG-ARTS)
3. 日 時：令和2年12月12日 (土) 13:00~16:30
4. 場 所：Zoom を用いたオンライン開催
配信拠点：立命館大学びわこ・くさつキャンパス
(〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1)
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：近年、理系・文社系を問わず、いわゆるビッグデータを基礎データとして、ICT環境を用いて研究が行なわれるようになってきた。今期に開催した計4回の同名シンポジウムに引き続き行なわれる本シンポジウムでは、理系・文系の両方のアプローチで研究が行なわれている複数のテーマを選び、それぞれのテーマで理系・文系の両方から第一線の研究者あるいは専門家を招いて講演を行う。これらの講演を踏まえて参加者とともに深い議論を行ない、文理の垣根を越えた、可視化を中核とする新しい文理融合研究の可能性を探りたい。
7. 次 第：
 - 13:00 開会挨拶
小山田 耕二 (日本学術会議会員, 京都大学学術情報メディアセンター教授)
 - 13:05 趣旨説明
田中 覚 (日本学術会議連携会員, 立命館大学情報理工学部教授)
 - 13:15 第1部 3次元計測と可視化
司会：田中 覚 (日本学術会議連携会員, 立命館大学情報理工学部教授)
 - ・文系の視点からの講演 (25分)
講師：山口 欧志 (奈良文化財研究所研究員)
 - ・理系の視点からの講演 (25分)
講師：(調整中) (3次元計測関連技術の研究者)
 - 14:05 第2部 テキストマイニングと可視化
司会：小山田 耕二 (日本学術会議会員, 京都大学学術情報メディアセンター教授)
 - ・文系の視点からの講演 (25分)
講師：樋口 耕一 (立命館大学産業社会学部准教授)
 - ・理系の視点からの講演 (25分)
講師：美馬 秀樹 (東京大学大学院工学系研究科准教授)
 - 14:55-15:00 (休憩)
 - 15:00 第3部：マンガ/アニメと可視化
司会：藤代 一成 (日本学術会議連携会員, 慶應義塾大学理工学部教授)
 - ・文系の視点からの講演 (25分)

講師：小沢 高広（漫画家「うめ」）

・理系の視点からの講演（25分）

講師：山西 良典（関西大学総合情報学部准教授）

15：50 パネル討論「ICT／ビッグデータ時代の文理融合研究を探る」

ファシリテータ：田中 覚（日本学術会議連携会員，立命館大学情報理工学部教授）

討論者：講演者・司会者・分科会・小委員会※選抜メンバー

※ICT時代の文理融合研究を創出する可視化小委員会，可視化の新パラダイム
策定小委員会

16：25 閉会挨拶

萩原 一郎（日本学術会議連携会員，明治大学研究・知財戦略機構・特任教教授）

16：30 閉会

8. 関係部の承認の有無： 第三部

（下線の講演者等は、主催委員会(分科会)委員）

公開シンポジウム「食の安全と環境ホルモン」の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会／日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会／日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会／日本学術会議食料科学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同毒性学分科会

2. 共 催：日本環境ホルモン学会、食品衛生学会

3. 後 援：未定

4. 日 時：令和2年12月5日（土）13：30～17：30

5. 場 所：Webex を用いたオンライン開催
配信拠点：北海道大学大学院獣医学研究院

6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

環境においてホルモン用作用を示す環境ホルモンは、当初想定されていた環境エストロゲン類だけではなく、様々な化学物質が様々な機序を介していることが分かってきた。「食」を介して曝露が懸念されている環境ホルモンと、その多様な作用について、最新の情報を共有する。

8. 次 第：

座長：有菌 幸司（熊本大学薬学教育部 特任教授）

菅野 純（日本学術会議毒性学分科会委員長）

司会：石塚 真由美（北海道大学大学院獣医学研究院教授、日本学術会議第二部会員）

13時30分～13時35分

開会の挨拶：有菌 幸司（熊本大学薬学教育部 特任教授）

13時35分～14時05分

医薬品からの環境ホルモン（仮題）

石橋 弘志（愛媛大学大学院農学研究科准教授）

14時05分～14時35分

新興農薬の毒性と安全性（仮題）

池中 良徳（北海道大学大学院獣医学研究院准教授）

14時35分～15時05分

生活用品による健康被害と対策

河上 強志（国立医薬品食品衛生研究所生活衛生化学部室長）

休憩 15時05分～15時15分

15時15分～15時45分

環境ホルモン作用と発達神経毒性評価法の確立（仮題）

掛山 正心（早稲田大学人間科学学術院教授）

15時45分～16時15分

情動認知行動試験の国際化とOECDへの提案（仮題）

種村 健太郎（東北大学農学研究科教授）

16時15分～16時45分

化学物質の妊娠期曝露による多世代、継世代とエピジェネティクス

野原 恵子（国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康研究センターフェロー、日本学術会議連携会員）

休憩 16時45分～17時00分

17時00分～17時25分

総合討論：環境ホルモンのリスクアセスメントのために

（菅野座長および各講演者）

17時25分～17時30分

閉会の挨拶：高井 伸二（北里大学獣医学部教授、日本学術会議第二部会員）

9. 関係部の承認の有無：※第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）